

まえがき

放送大学と放送教育開発センターは、1989年10月19日と20日の両日、センターの制作棟ホールにおいて「第2回大学放送教育国際シンポジウム」を共催致しました。大学放送教育が過去20年間、電気通信の目ざましい革新とともに目を見張る進歩を遂げてきたことを考慮して、さまざまな組織や国を代表する行政担当者、教育者、研究者が意見を交換するのに相応しく、得るところの大きい機会となりました。とりわけアジア、太平洋地域では現在、多くの国々で、多少なりとも電気通信技術を利用した新しい公開大学設置に向けての非常な努力がなされております。多くの一般の人々が大学教育を受けられるようにするために、十分に予算が組まれた新しい教育政策が必要になります。しかし同時に、メディア運営者と教育者側の創意工夫と熱意が重要になります。この点において、シンポジウムは参加者全員に国際間の対話と協力が緊急に必要であることを思い起こさせてくれました。主催者側を代表しまして私共は、このように素晴らしい発表と討論に参加して下さった方々全員に心からの感謝を捧げたいと思います。この新事業の輝かしい未来のために、このシンポジウムが、世界中の大学放送教育を奨励し、そしてより緊密な国際ネットワークを促進するための、新たな一歩になったものと信じております。

放送大学長

甲田 和衛

放送教育開発センター所長

加藤 秀俊